

ごあいさつ

引野学区まちづくり推進委員会（以下「推進委員会」という）は、これからのまちづくりをどのように進めるかをまとめた「引野学区まちづくり計画」（以下「計画」という）を策定し、それを冊子にして広く引野学区の皆様にお配りすることにいたしました。

「計画」は、福山市が策定した「第二次福山市協働のまちづくり行動計画」に基づき検討したものです。この特徴は、行政主導のまちづくりから行政と地域が協働してまちづくりを行うところにあります。

「推進委員会」は、2012年度の事業として広く学区内から選ばれた「志縁委員」に「計画」づくりを諮問しました。「志縁委員」は、地域の諸団体を中心にアンケート調査、聞き取り調査などを行い、「計画」を答申しました。それを基に今年度は、「計画」を分かりやすくまとめた冊子を作ることにしました。

この冊子に書かれた「計画」は、引野学区のまちづくりのめざすべき方向を示したものです。その中には、これまで取り組まれてきたものもありますし、川掃除、地域と学校で行う合同の防災訓練など今年度新しく取り組まれたものもあります。一方、まだ実践に移されていないものも多くあります。

既に実践されているものはさらに発展させ、まだ実践されていないものは実現できるよう努力したいと考えています。そのためにも、学区の皆様のご理解とご協力がとても大切と考えます。

住みよい、住んでよかったと実感できるまちづくりのために「推進委員会」は、一層努力する所存です。学区の皆様・事業所の皆様のご支援・ご協力をいただくよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

2014年3月

引野学区まちづくり推進委員会
委員長 三好勝芳



とんど祭り



地域と小学校が合同で取り組んだ
防災フェスタ2013(担架作り)

1 学区の概要と課題

(1) 地形と災害

引野学区の平地部は、江戸時代初期に干拓で形成されたため海拔が0メートル前後で、形成時以来水害に悩まされてきました。加えて周辺の丘陵地が宅地化されたため保水能力が低下し、いっそう洪水・津波被害の危険度が高まっています。また、干拓地特有の軟弱な地盤のため沈下が進み、地震時には液状化の被害も予想されます。



2008年の洪水(宅部)

丘陵部から平地部に接するところは、もろい真砂土層の急斜面になっています。斜面では土砂崩れがしばしば発生しています。

(2) 利水・排水・環境

平地部を縦横に走る用水路は、利水の役割をほとんど失い、排水機能が主になっています。そのこともあり川掃除が長い間行われず、川・用水路には草が生え、ごみが散乱し、土砂が堆積するようになりました。

近年、川掃除が地域と行政の協働で取り組むことで環境がよくなり、さらに地域を守ろうという住民の意識も高まってきました。

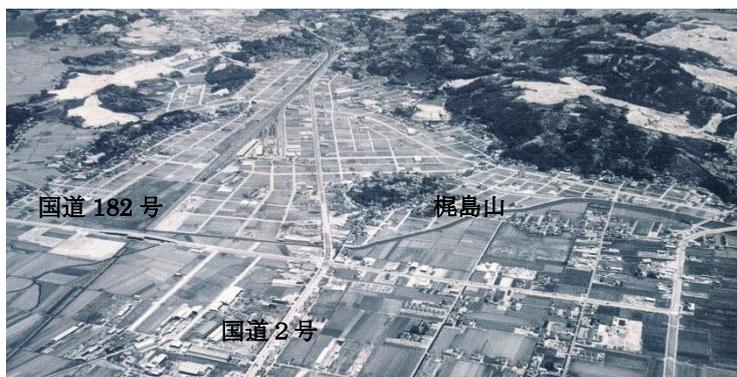
丘陵部の棚田、畑、山林は宅地化されるとともに、山林化した田畑も多くなりました。それに伴いほとんどの池は、利水機能を失っています。洪水を防ぐ調整池に指定されている谷地池の他は、有効な整備・活用ができていません。

池へ大量のごみが不法投棄され、土手や池周辺には雑草・雑木が繁茂し、土砂が堆積するなど多くの問題があります。不法投棄されたごみの処理や大きい池の土手の草刈りが、区域に池を持つ自治(町内)会員のボランティアで行われています。

(3) インフラ・交通

引野町では、高度成長期にいち早く土地区画整理事業が行われました。そのため、道路、上下水道、都市ガス、光ケーブルなどのインフラも早くから整備されました。一方、丘陵部の一部の地域では道路、下水道などの整備が未だ進まない問題もあります。

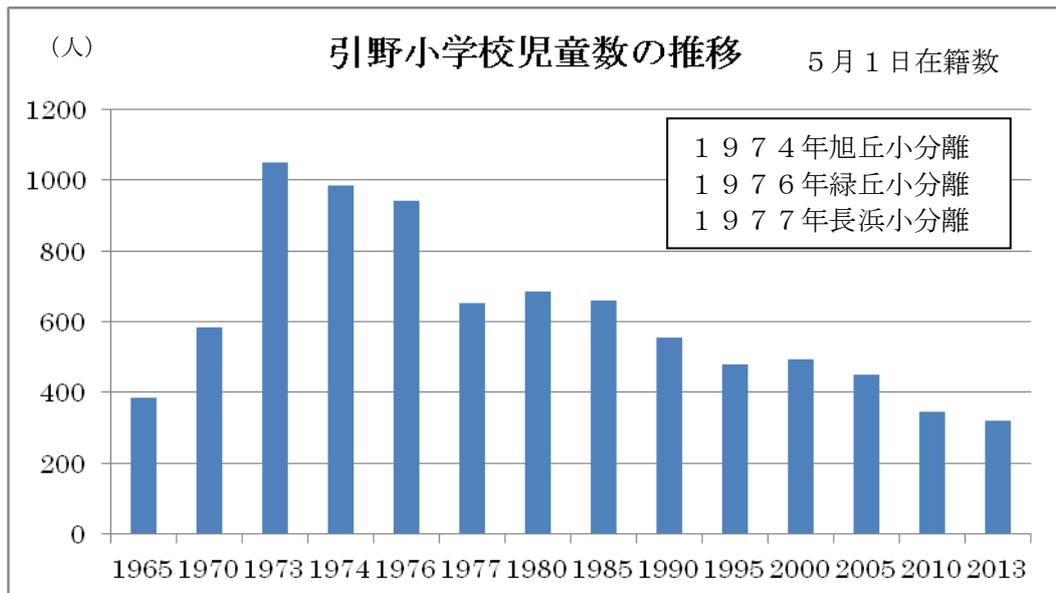
また、近年バス便が減数になり通学・通院などに不便が生じています。



引野の区画整理事業(1968年)

(4) 人口の急増と課題

引野村は、1956年福山市に合併しました。1961年に日本鋼管(株)[現JFE]が引野沖への進出を決定しました。それまでは豊かな田園風景が広がっていました。1970年に完了した区画整理事業後は、住宅・事業所が次々に造られ、丘陵部にも住宅団地ができました。そのため急速に人口が増加し、それに伴い児童も急激に増え、引野小学校から旭丘・緑丘・長浜小学校が分離しました。



人口流動が大きくなる中では、全世帯の自治(町内)会への加入が困難になりました。そのため自治会加入率が57.7%(2012年4月現在)に留まっています。社会構造の変化もあり、住民のつながりは、かつてより希薄になっていることは否めません。自治(町内)会加入率が低いままであれば、高齢者問題、子育て、安心・安全などの課題解決に困難が生じると予想されます。

(5) 子育て支援

学区では、子育てを地域の力で支える取り組みが積極的に行われてきました。「一ツ橋中学校区ぱーとなー本部」による学校・家庭・地域による相互支援が成果をあげてきました。多くの子どもたちが地域行事やボランティア活動に参加し、大人と子どもの交流が盛んに行われ、児童・生徒の心の成長や地域の活性化につながっています。

また、乳幼児や保護者の交流の場である「おもちゃサロン」や多くのボランティアで運営されている「放課後子ども教室」の取り組みも定着してきました。



放課後子ども教室

(6) 高齢者支援

少子高齢化が急速に進んでいます。福山市全体とほぼ同じような推移で、引野学区でも支援が必要な高齢者が年々多くなっています。それだけに行政サービスだけでなく、地域の支援が必要になっています。災害時の支援体制づくりなどとともに、日頃からの声掛け、見守り活動といったつながりを作ることは大切です。

また、高齢者が元気で生きがいを持ちながら過ごせるような支援が必要です。グラウンドゴルフなど趣味のサークルや「サロン喫茶」のような集える場を作ること、高齢者の知恵と経験を生かした場づくりを工夫することも大切です。



サロン喫茶「井戸端会議」

(7) 文化活動

公民館・集会所・学校などを利用した文化・スポーツなどのサークル活動がかなり行われています。また、ばらづくりの研修を通してつながりを深めている活動もありますが、今後さらなる充実が求められています。

「引野と長浜の歴史と文化財」の出版や「昔のくらしを聞く会」を開くなどして地域を知る活動をしています。地域を知り、地域に愛着を持っていただくために活動した成果を広く伝えることができる冊子作りも計画しています。



(8) 志縁委員(会)

これらの他にも多くの地域課題があります。まちづくり推進委員会は、まちづくりに関わる課題をつかみ、研究し、提案する組織として志縁委員(会)を作りました。住みよいまちづくりに役立つさまざまな提案を継続的に行うよう考えています。

